

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公告

⑫特許公報(B2) 昭56-1230

⑪Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭公告 昭和56年(1981)1月12日

B 41 F 35/06

6822-2C

発明の数 2

(全2頁)

1

2

⑭ブランケット洗浄法

⑮特 願 昭47-108800

⑯出 願 昭47(1972)11月1日

公 開 昭49-68809

⑰昭49(1974)7月3日

⑱発 明 者 斎藤賢郎

東京都豊島区要町1の48

⑲出 願 人 ニツカ株式会社

東京都板橋区常盤台2の20

⑳代 理 人 弁理士 小林正雄

㉑特許請求の範囲

1 印刷インキに対して溶解力を有する溶剤を洗浄液として含浸する含液洗浄紙を、印刷機の圧胴とブランケット胴の間に挿入し、その回転圧着を利用してブランケットを洗浄することを特徴とする、ブランケット洗浄法。

2 印刷インキに対して溶解力を有する溶剤を洗浄液として含浸する含液洗浄紙と水を含浸する含水洗浄紙を併用し、印刷機の圧胴とブランケット胴の間に挿入し、その回転圧着を利用してブランケットを洗浄することを特徴とする、ブランケット洗浄法。

発明の詳細な説明

本発明は洗浄紙によるブランケット洗浄法に関する。

印刷機のブランケットはインキによる汚れ、紙粉の堆積などのため、しばしば洗浄する必要がある。従来は、溶剤又は水を浸した布等を用いて手でブランケットを洗浄しているが、この方法は一時的ではあるが、機械を止めて少しずつブランケットを移動させながら洗浄するため、時間がかかると共に機械の回転部分に手が挟まれる危険があり、また洗浄液が直接手につくため衛生上好ましくない。

最近、洗浄液としての溶剤をブラシ、ロール、

ベルト等により機械的にブランケットに付け、次いで拭き取り洗浄する自動洗浄装置が用いられてきている(特公昭44-18447号及び特公昭44-2166号各公報参照)。しかしこの装置は構造をあまり小さくすることができず、かつ高価であるため、小型機への採用は困難である。

本発明は印刷インキに対して溶解力を有する溶剤を洗浄液として含浸する含液洗浄紙を、場合により水を含浸した含水洗浄紙と併用して、印刷機の圧胴とブランケット胴の間に挿入し、その回転圧着を利用してブランケットを洗浄することによる、ブランケット洗浄法である。

本発明に用いられる印刷インキに対して溶解力を有する溶剤としては、たとえば石油系溶剤たとえばテレピン油、ホワイトスピリット、塩素系溶剤たとえばトリクロルエタンがあげられる。また含水洗浄紙には、アルコール、界面活性剤等の助剤を添加してもよい。

洗浄液又は水を含浸させる用紙としては、組織が粗くて液を含みやすく、かつ液を吸収しやすい性質のものが好ましい。紙としては植物繊維を原料とする紙のほか、合成繊維又は合成繊維から成る紙状物も用いられる。

本発明を実施するに際しては、たとえば洗浄液を含浸した含液洗浄紙数枚、通常3-4枚を、印刷紙と同じように1枚ずつブランケット胴と圧胴の間に挿入する。

この際、ブランケット胴と圧胴の間を通過する際に圧縮されて、含まれている洗浄液はブランケット上に押し出されてブランケット上の印刷インキを溶解し、溶解された印刷インキは洗浄紙に吸収される。この際、溶解インキと共に紙粉の一部は、洗浄紙に付着除去されるが、洗浄液は一般に紙粉を溶解しないことが多く、紙粉の除去が完全に行なわれない場合がある。

このような場合は、含水洗浄紙を数枚、通常1-2枚を1枚ずつ前記と同様に挿入する。含まれ

3

ている水は押し出され、ブランケットを清浄化すると共に、紙粉を溶解又は浮上がらせて、洗浄紙に吸着もしくは付着させブランケットより除去する。含液洗浄紙及び含水洗浄紙の用いる順序は適宜変えることができる。

洗浄液又は水が残存するような場合は、含水していない用紙を通過させて、残存水分等を吸収し乾燥させるとよい。

また洗浄液が版に付くのが好ましくない場合は、印圧を抜いて洗浄紙を挿入するとよい。この場合、10 洗浄紙は若干厚目に作られたものが好ましく、数枚重ねて使用してもよい。

本発明によれば、洗浄液及び場合により水を含浸させた洗浄紙数枚を運転中の印刷機に挿入する

4

ことにより、ブランケット洗浄を容易にし、安全かつ衛生的に行なうことができる。また高価な機械設備を設ける必要もなく、仕事の流れを変えることなくスムーズに洗浄を行なうことができる。

5 実施例

ホワイトスピリット30mlを菊版不織布(特種製紙社製)に塗布したもの(A)3枚、水10ml及びアルコール1mlを菊版不織布に含水したもの(B)2枚を、運転中の菊版オフセット機のブランケット胴と圧胴の間に(A)3枚、(B)2枚の順に1枚ずつ挿入し、機械を回転させブランケット胴を洗浄した。

この操作により手でふいたと同様にインキの拭浄と紙粉の除去が行なわれた。